

この度の東日本大震災で被災された方、
復旧に携わる方、お心を痛めておられる方、
すべての方に お見舞いを申し上げます。

📖 シリーズ「きょうだいの思い」④

～高槻の小学校～

私は二年生の二学期に転入した。始業式が終わった後にクラスの友達が教室を案内してくれた。その時、数メートル先を歩く同じ二年生3人がいた。真ん中には、身体と知的障がいのある女の子、その両側には友達が手をつないでいる。学校の渡り廊下で見た光景は今でもよく覚えている。私には、その光景が自然に受け入れられた。以前の小学校とは違い、スーッと体に染み込んできた。

縁あってその障がいのある女の子と二～四年生まで同じクラスだった。私が二年生の時期は、弟が入学する前の時期だった。母に連れられて、市役所へ行った覚えがある。今思えば教育委員会だろう。母が話をしている間、静かに待ってられない弟と市役所の中をウロウロしながら時間を潰していた。子供ながらに「弟がみんなと同じ小学校に通うことは簡単じゃないねんなあ」と感じていた。

三年生になって、弟が入学してきた。

4月の始業式に、校長先生が全校生徒の前で「一年生の友達に〇〇君がいます。仲良くしましょう」と弟の事を紹介した。嫌ではなかった。弟の事を知っている方が自分自身が楽なような気分だった。

高槻の小学校は、以前の小学校と違って”やさしい学校”のような気がしていた。母が付き添う必要もなく、弟だけで学校生活を過ごせて、ちゃんと弟を見てくれる先生たちがいて、私にはやさしく感じた。

私達きょうだいの小学校生活の始まりの年は、なんとなんと私と弟の教室が隣になった！

※ある当事者のお姉様に、前穂通信の為に書き下ろして頂きました。

前穂通信

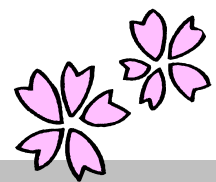
まええほつうしん

発行日

2011年4月1日

発行元

自立センター前穂
〒569-1022
高槻市日吉台
1番町21-18
072-689-8600



📢 前穂からのお知らせ

【虐待防止・権利擁護等について】

3月23日に表題の財団法人大阪府地域福祉推進財団主催による研修に参加してきました。皆様との日々のお付き合いに、反映してゆきたいと考えております。

【常勤職員の退職】

スタッフ退職